

「平成24年度神戸市学力定着度調査」の結果概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

児童生徒の学力の定着状況や学習に対する意識及び生活実態を神戸市全体として把握し、調査結果を指導方法や指導内容の改善に役立てる。

(2) 調査の対象学年と対象児童・生徒数

	抽出数	備 考
小学校5年生	1,300 人	全市小学校5年生の約 10%
中学校2年生	1,240 人	全市中学校2年生の約 10%

(3) 調査方法と調査教科・内容

調査方法・対象学年等		調査教科・内容
教科に関する調査	小学校5年生	国語・社会・算数・理科
	中学校2年生	国語・社会・数学・理科・英語
質問紙調査	小5児童・中2生徒	学習に対する意識・生活実態調査
	教 員	児童生徒の学習状況・学校教育活動に関する調査

※ 調査問題は、文部科学省による過去の全国調査（平成 15 年度教育課程実施状況調査、平成 19～24 年度全国学力・学習状況調査等）や神戸市独自作成問題等を組み合わせて使用した。

(4) 標準実施日 平成24年10月23日（火）・24日（水）

2. 結果の概要

(1) 教科に関する調査

- ・小・中学校ともに、全ての教科において、学力は「概ね定着している」という結果であった。
- ・各教科の領域別に見ると、ほとんどの領域で「概ね定着している」という結果だったが、小学校では、特に「算数」の「量と測定」領域、「理科」の「生命」領域が良好な結果であった。また、中学校では、「数学」の「数と式」領域、「英語」の「読むこと」領域が良好な結果であった。

(2) 児童生徒に対する質問紙調査

- ・小学校では、学校の授業が「分かる」と答えた児童の割合が 91.5%と高い結果となった。また、中学校でも平成 16 年度の測定開始以来、最も高い結果となった平成 23 年度の測定値と同じく 78.7%であり、良い結果となった。
- ・1 か月に本を「ほとんど読まない」と答えた児童生徒は、小・中学校ともに低下傾向にあり、特に中学校では平成 23 年度より 3.9 ポイント低下した。

(3) 教員に対する質問紙調査

- ・「児童生徒に不足していると思うこと」については、小・中学校ともに「耐える力」が 50%を超えて最も多く、次いで「基本的なしつけ」となっている。また、学力については、小学校で「学力（活用する力）」が3番目に、中学校で「学力（基礎・基本の力）」が4番目にあげられている。

3. 各教科の調査結果の概要

(1) 小学校

(単位：%)

小学校国語	教科全体	領 域 別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
神戸市平均正答率	68.4	64.9	77.2	44.4	79.8
設定通過率	68.1	66.7	75.0	48.0	78.3
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「言語事項」領域の「文の内容を理解し、1つの文を2つの文の構成にして書き換える」設問は、23年度の正答率を大きく上回った。主語・述語の関係について低学年からの反復的な指導が好結果につながったと思われる。</p> <p>○「読むこと」領域の中では「資料を比べて読み、書き手の違いや書き表し方の特徴に着目して、自分の考えを深める」設問等で、課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆漢字の指導については、漢字だけを覚えさせるのではなく、他教科や実生活の中で、日常的に文や文章の中で漢字を使おうとする態度が身に付くように指導する。</p> <p>☆読書を日常的に行うため、本だけではなく新聞や雑誌、パンフレットなど様々な資料を活用できるようにする。また、目的に応じて、適切な文章や本などを複数選び、比べて読むことが大切である。</p> <p>☆神戸市独自の読解力育成教材『ことばひろがる よみときブック』を活用するなど、文章からだけではなく、グラフや図表からも読み取ることを指導する。</p>				

小学校社会	教科全体	領 域 別				
		地図の 基礎基本	日本の 地理	世界の 地理	身近な くらし	日本の農業や 水産業
神戸市平均正答率	68.4	80.2	65.5	62.3	53.1	69.3
設定通過率	67.9	78.3	67.5	65.0	55.0	66.0
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「地図の基礎基本」の領域では、「等高線を見て高さを求めている」設問の正答率が23年度を上回り、等高線の見方についての技能が定着していると判断できる。</p> <p>○「日本の地理」の領域では、日本地図を見て「北海道」を漢字で答える設問については定着が見られるが、「本州」を答える設問に課題が見られた。</p> <p>○「世界の地理」の領域では、「世界の主な大陸を理解している」設問では、「アフリカ大陸」の正答率が36.4%と課題が見られた。</p> <p>○「身近なくらし」の領域では、「ごみの処分」や「水道」に関する資料から内容を読み取る設問に課題が見られた。</p> <p>○「日本の農業や水産業」の領域では、「兼業農家」や「食糧自給率」といった用語の意味を理解する設問に課題が見られた。</p>					
対応策	<p>☆都道府県名や「北海道」「本州」などの表記は、漢字を使って書けるようにする。</p> <p>☆世界地図の準備を心がけ、社会の授業以外にも時事問題やニュースなどで、外国の話題に触れるなど、児童の興味関心が高まるように工夫する。</p> <p>☆ふだんの生活と比べたり、関連性について考えたりしながら資料を読み取り、問題について話し合う。</p> <p>☆資料を見て「確かめる」「見つける」「考える」という授業展開を通して、資料活用能力を身に付けさせる。</p>					

小学校算数	教科全体	領 域 別			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係
神戸市平均正答率	78.9	77.2	83.0	79.3	82.3
設定通過率	75.2	73.6	75.0	76.0	80.0
評 価	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「量と測定」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「図形」領域では、「2枚の長方形の紙を重ねたところにある図形（平行四辺形）を答える」設問で、やや課題が見られた。</p> <p>○「数量関係」領域では、「おはじきの数え方を表す式を選択する」設問で、課題が見られた。また、（ ）を使った数式について、特に正答率が低かった。</p>				
対応策	<p>☆図形を重ねる、色紙を折る、対角線で切る、複数の図形を組み合わせて形をつくるなど、図形の定義や性質を見つける「算数的活動」を積極的に取り入れる。</p> <p>☆式の中にある数量の変化の仕方について特徴を調べたり、数量の関係を言葉や数式などに表したりする「算数的活動」に取り組むことで、数量の関係を表す式についての理解を深める。</p>				

小学校理科	教科全体	領 域 別			
		物質	エネルギー	生命	地球
神戸市平均正答率	72.0	65.9	68.3	76.3	79.3
設定通過率	67.2	61.1	66.7	70.0	76.7
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「生命」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「生命」領域では、「微生物を観察するために顕微鏡のしくみが分かり、適切に操作する」ことに関する設問では、正答率が設定通過率を大きく上回っており、観察や実験の指導が順調に進んでいることがうかがえる。</p> <p>○「物質」領域では、「水の温まり方について」問う設問では、課題が見られた。</p> <p>○「地球」領域では、「天気がおおよそ西から東へ変化していくこと」を問う設問で「東から西へ動く」という解答が約16%にのぼり、課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆観察・実験の過程や結果を、文とともに表やグラフ等を使って記録し、全員で共有できるようにする。</p> <p>☆理科の学習で学んだことが、実際の自然現象とどう関わっているのか、また生活の中でどう役立てられているのかを感じられるような指導を行う。</p>				

【正答率及び設定通過率について】

○正答率……正答した児童生徒の人数の割合（50人中40人が正答していれば80%）

○設定通過率…問題を作成した際に設定した「おおむね満足できる状況」と判断する基準正答率

設定通過率70%の問題：70%の児童生徒が正答していれば「おおむね満足できる状況である」と判断できる問題

※通過率は、その問題を過去に実施した際の正答率（全国調査、神戸市調査等）や問題の難易度から設定した。

【抽出調査の精度と評価について】

○調査結果の精度として±5ポイントの誤差を見込んでおり、分析にあたっては、正答率の比較を行う際に、次の基準で評価を行った。

+5ポイント以上…良好である +4.9～-4.9ポイント…概ね定着している -5ポイント以下…課題がある

(2) 中学校

(単位：％)

中学校国語	教科全体	領 域 別			
		話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	言語事項
神戸市平均正答率	76.4	87.5	65.7	80.6	75.2
設定通過率	72.5	85.0	62.5	75.7	71.4
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「読むこと」領域では、「説明的文章を読んで、筆者の考えを捉える」設問では、23年度の平均正答率を上回り、良好な結果であった。</p> <p>○「書くこと」領域では、「書かれている情報をもとに、自分の考えを論理的に書く」設問で、与えられた条件（理由を書く、説明文の語句を用いて書く、3文に分けて書く等）にしたがって解答できていないものが見られ、正答率も設定通過率を下回った。</p> <p>○「言語事項」については、「文章の中で語句や語彙を正しく使う」設問において、「採る」「性分」といった語句の使い方に課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆「書くこと」領域については、授業の中で自分の考えを論理的に書いたり、字数を制限するなどの条件を付与して書くなどの活動を取り入れ、書く習慣を定着させる。</p> <p>☆「言語事項」については、漢字の読み書きの反復指導の継続とともに、実生活に活用できるよう語句や語彙の指導を行う。</p>				

中学校社会	教科全体	領 域 別	
		地理	歴史
神戸市平均正答率	52.2	58.1	45.9
設定通過率	51.6	56.2	46.7
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○「地理」領域及び「歴史」領域について、ともに「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「地理」領域では、「半球上に示された大陸や海洋の名称と分布」について、「大陸名と海洋名の正しい組み合わせ」の設問は23年度の平均正答率を大きく上回った。一方で、「半球図上に示された大陸や海洋の名称（南アメリカ大陸、オーストラリア大陸、インド洋等）と分布を読み取る」設問についてはやや課題が見られた。また、「日本の領土面積と経済水域面積を世界の国々と比較して捉える」設問についても、各国の特徴を捉えることができず、課題が見られた。</p> <p>○「歴史」領域では、「歴史的資料に示された情報を読み取り、知識と関連付けて表現する」設問について課題が見られた。また、中世アジアの貿易関係を理解し、資料の説明から「中継貿易」と答える設問についても課題が見られた。</p>		
対応策	<p>☆地図をはじめとする様々な資料から情報を読み取り、社会的事象を比較し、共通点や相違点を発表したり、文章で表現したりするなど、言語活動を定期的に取り入れた授業を行う。</p> <p>☆小学校での既習事項や基礎・基本的な知識・概念や技能を各単元のはじめに確認するなど、授業展開を工夫する。</p> <p>☆世界・日本の諸地域を問わず地名と位置を地図帳で確認したり、資料・グラフの特徴等を発見したりする学習活動を通して、社会的事象と概念を結び付けて考えられるようにする。</p> <p>☆教科書の記述を網羅的に扱うのではなく、各時代の特色を捉える事象を取り上げ、小集団学習を通して同時代や同時代間の関連や影響を考える授業を行う。</p>		

中学校数学	教科全体	領 域 別			
		数と式	図形	関数	資料の活用
神戸市平均正答率	68.2	69.4	74.7	62.8	59.7
設定通過率	64.2	64.3	70.0	60.0	60.0
評 価	概ね定着	良好	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○「数と式」領域が、設定通過率を5ポイント以上上回り、「良好」な状況である。他の3つの領域についても、「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「数と式」領域については、「連立方程式を立式し、解答を導く」設問について、23年度の平均正答率を上回り、良好な結果であった。</p> <p>○「資料の活用」領域については、「盗難件数の増減に関するグラフについての説明が適切であるか、不適切であるかを判断し、そのように判断した理由を書く」設問について、課題が見られた。</p>				
対応策	<p>☆問題解決の構想を立て、結果を振り返り、数学的な表現を用いて説明するなど、数学的活動の充実を図る。</p> <p>☆資料を整理することにとどまらず、その傾向を読み取る活動を通して、「読んで 考えて まとめながら 書く」力を育成する。</p>				

中学校理科	教科全体	領 域 別			
		物質	エネルギー	生命	地球
神戸市平均正答率	51.6	41.3	53.8	63.6	41.0
設定通過率	50.7	45.7	51.4	58.9	42.0
評 価	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で「概ね定着」と判断できる。</p> <p>○「物質」領域については「気体の性質に基づいて、適切な捕集方法について説明する」設問で課題が見られた。</p> <p>○「エネルギー」領域では、「実験結果から、おもりの重さとはねの伸びの関係のグラフを作成する」設問で課題が見られた。</p> <p>○「生命」領域では、「顕微鏡観察から気孔を指摘する」設問で、設定通過率を大きく上回った。</p> <p>○「地球」領域では、「凝灰岩と火山の噴火の関係」について記述する設問では、設定通過率を上回ったものの、無解答率が高かった。</p>				
対応策	<p>☆目的意識をもった観察・実験を行い、科学的に調べる能力や態度を育てるとともに、「物質」領域に関する基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。</p> <p>☆「地球」領域の学習においては、地層の野外観察を行うなど直接体験を重視しながら学習を進めることが大切である。</p>				

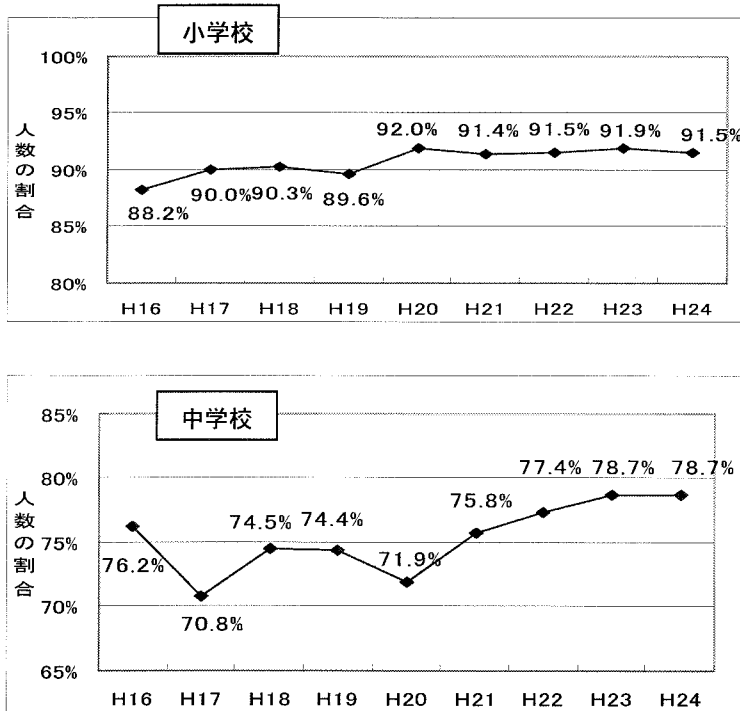
中学校英語	教科全体	領 域 別		
		聞くこと	読むこと	書くこと
神戸市平均正答率	72.6	72.3	76.2	67.6
設定通過率	67.7	70.0	67.8	63.3
評 価	概ね定着	概ね定着	良好	概ね定着
分析結果	<p>○全ての領域で設定通過率を上回っている。特に「読むこと」領域は、5ポイント以上上回り「良好」な状況である。</p> <p>○「書くこと」領域では、「指定された内容を英語で書く」設問や「書く内容を考えて英語で書く」設問で23年度より向上が見られた。また、「語順を並び替えて正しい英文にする」設問では、設定通過率を大きく上回った。</p>			
対応策	<p>☆コミュニケーション活動を授業に多く取り入れ、学習項目を繰り返し使う場面を与えて、定着を図る。また、特定の場面で使われるフレーズに慣れさせる。</p> <p>☆聞いたり、読んだりした情報を書く活動に繋げる授業づくりが大切である。書く内容について、文やパラグラフの構成のパターンを指導しながら、まとまりのある英文が書けるように指導する。</p>			

4. 児童生徒の学習に対する意識・生活実態（抜粋）

（1）学習に対する意識・取組

① 学校の授業がどの程度分かりますか。

「よく分かる」と「だいたい分かる」合計の経年比較（選択肢は4段階）



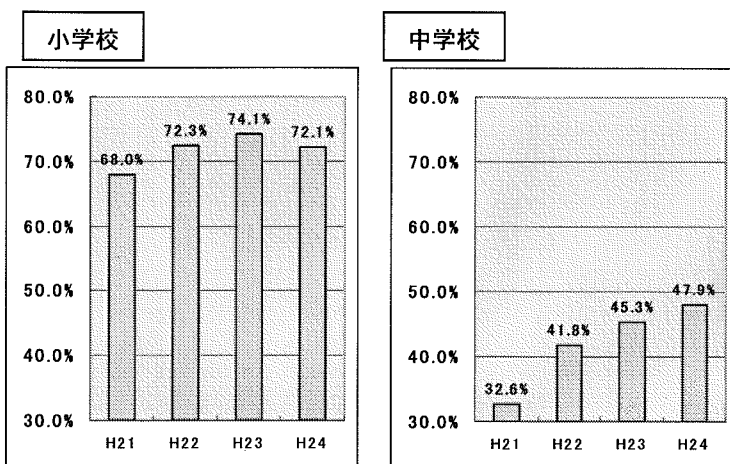
小学校については、新学習指導要領の全面実施後も、「授業が分かる」と答えた児童が9割を超えるという高い水準を維持している。

中学校については、平成16年度以来、昨年度と同様、過去最高の水準を維持している。

平成18年度から取り組んできた「分かる授業推進プラン」の取組の効果が出てきていると考えている。

② 授業中に文章や資料を読んで、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。

「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合計の経年比較（選択肢は4段階）



神戸市では、平成22年度から、「神戸まとめの達人運動」を展開し、小・中学校において、授業や学校生活の様々な場面で、「読んで 考えて まとめながら 書く」活動を推進している。

このような取組を受けて、平成22年度以降、「そうしている」と「どちらかといえばそうしている」の合計が、小学校では70%以上を維持し、中学校では年々上昇している。

今後も引き続き、さらなる浸透を図っていく。

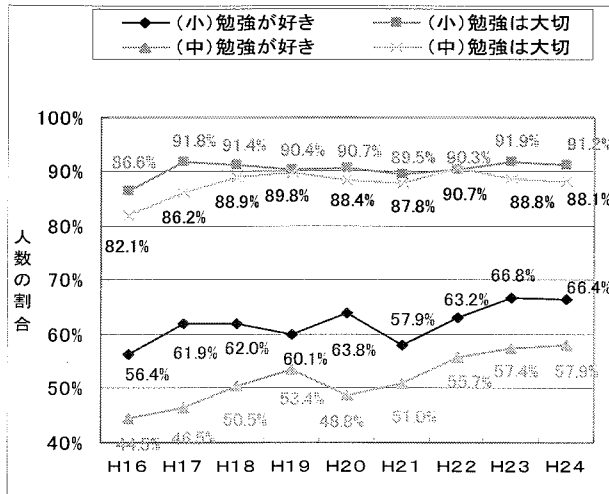
また、各教科の正答率との相関関係も強く、有効な取組だと考えている。

(2) 各教科に対する意識

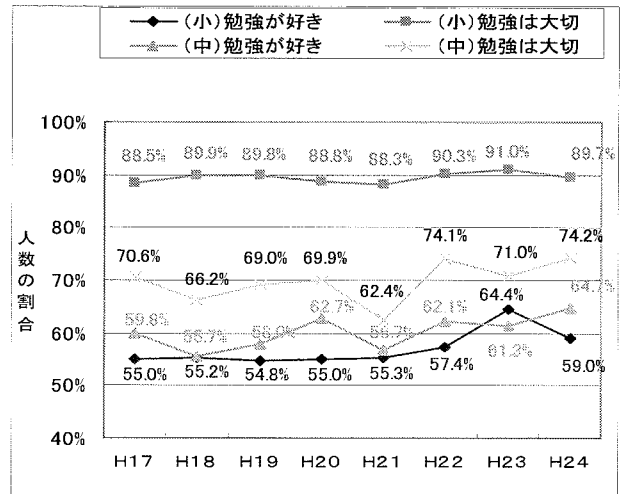
「勉強が好き」「勉強は大切」の経年比較

数値は、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合計したもの
(選択肢は4段階)

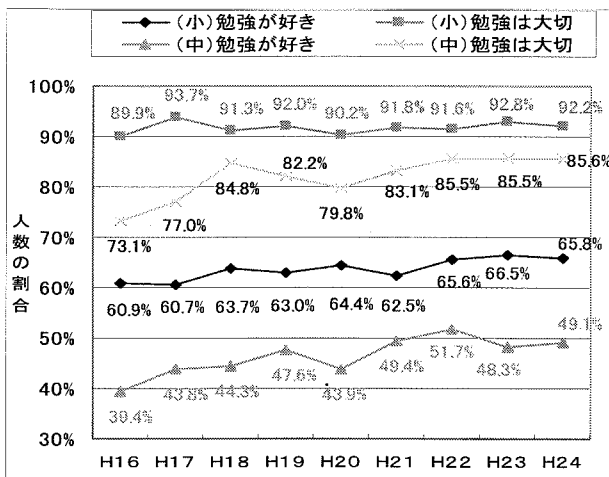
国語



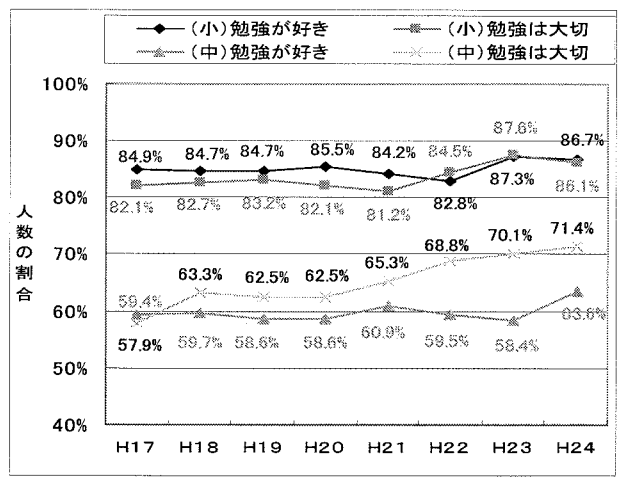
社会



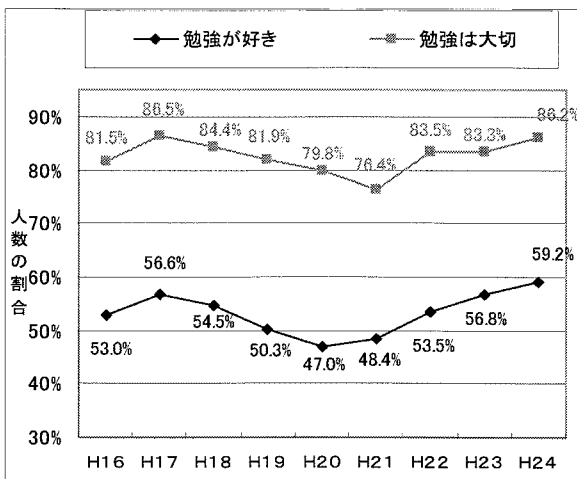
算数・数学



理科



英語



【全体の傾向】

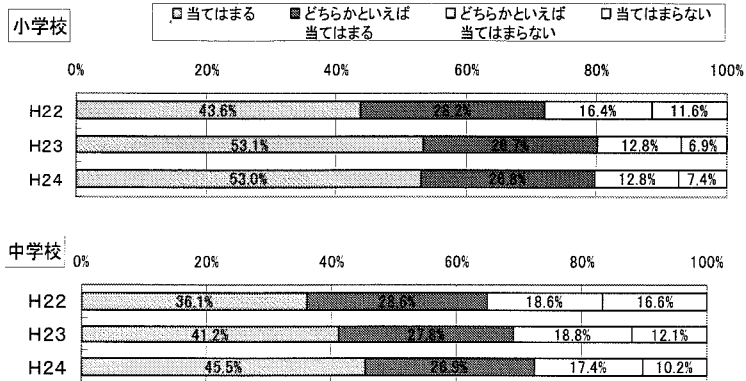
「勉強が好きだ」及び「勉強は大切だ」と答えた小学校の割合はほぼ横ばいか減少傾向にある。中学校の割合は社会、理科、英語で増加傾向にある。

全ての教科で「勉強は大切だ」については70～80%台にある。一方で、「勉強が好きだ」については小学校理科で86.7%、その他については40～60%台にある。

今後も積極的に「分かる授業」を推進し、各教科の「勉強が好きだ」という意欲を高めていく。

(3) 読 書

① 読書は好きですか。

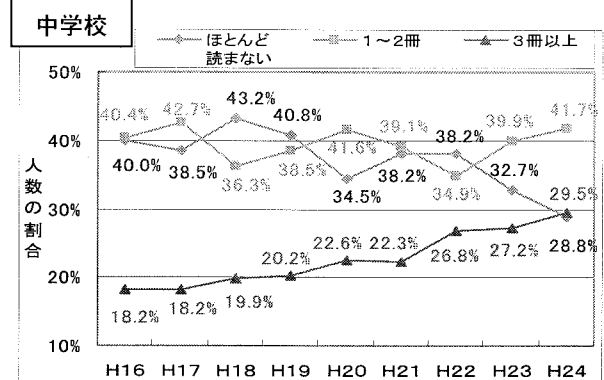
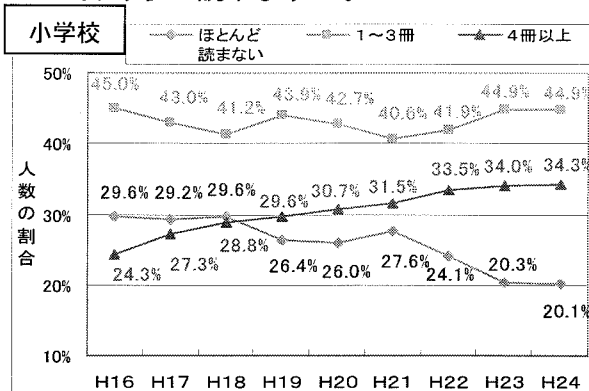


平成24年度は、「読書が好き」と答えた児童生徒の割合（「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）が、小学校では23年度に、8ポイント上昇し、24年度は23年度と同率であった。

中学校は年々増加傾向にあり、24年度は72.4%であった。

今後も引き続き、児童生徒の読書への意欲が向上するような取組を続けていく。

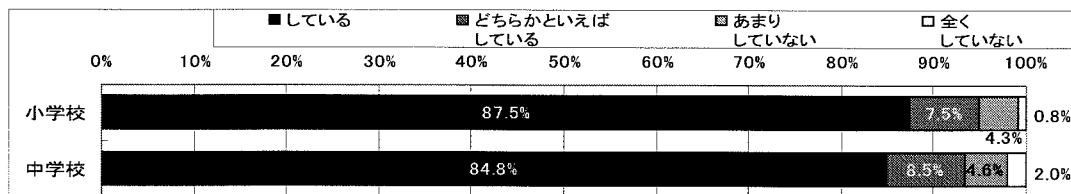
② 家で（児童館や図書館を含む）、本（教科書・参考書・マンガ・雑誌は除く）を1か月に何冊ぐらい読みますか。



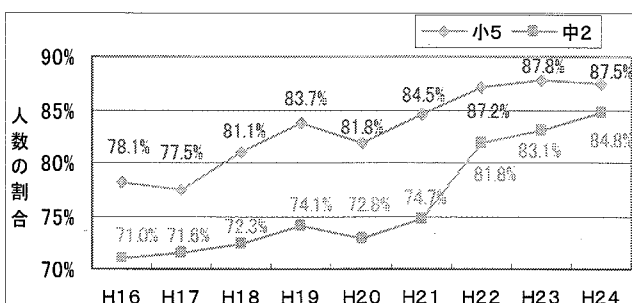
小・中学校とも、「ほとんど読まない」という児童生徒の割合が減少傾向にあり、特に中学生においては、顕著に現れている。また、小・中学校とも読書の冊数も増加傾向が続いている。日頃の地道な読書活動の取組の成果が現れたと考えている。今後も、読書指導の充実を図り、読書に親しむ態度を育成していく。

(4) 基本的生活習慣

① 朝食を毎日食べていますか。

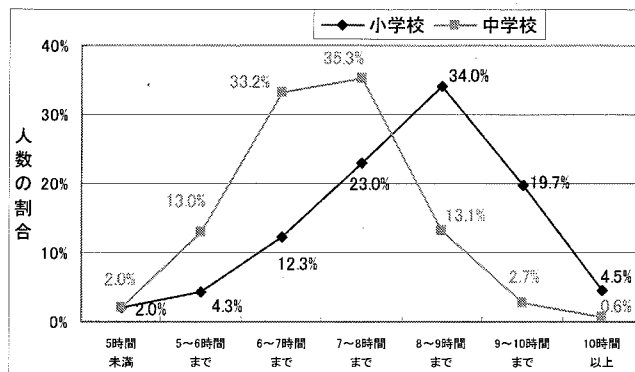


「毎日食べる」と答えた者の割合の変化



「している」と「どちらかといえばしている」の合計については、小・中学校とも、9割を超えており、平成24年度全国学力・学習状況調査（対象：小6・中3）の全国平均値と比較したところ、同程度の割合であった。また、「毎日食べる」という回答については、中学校で上昇傾向が続いている。

② 普段(月～金曜日)の睡眠時間は何時間ぐらいですか。



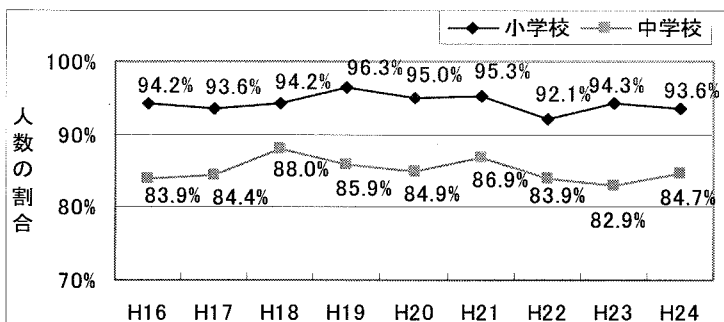
小5で最も多いのが「8～9時間」、中2では「7～8時間」という結果であった。

十分な睡眠は、学習面でも重要であり、今後、「早寝早起き」やテレビ等を見る時間やテレビゲームをする時間についての家庭でのルールづくり等を励行し、児童生徒の睡眠時間の確保に取り組んでいく。

(5) 家庭でのコミュニケーション

① 家の人にあいさつしていますか。

「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合の変化



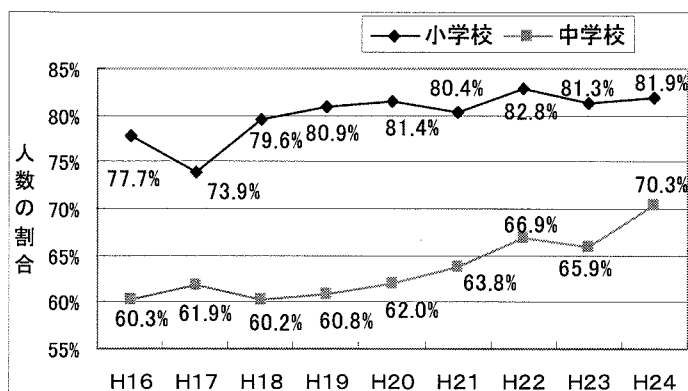
4段階の選択肢の中で、「している」と「どちらかといえばしている」と答えた割合が、小5でやや減少し、中2は増加に転じた。

各教科との正答率とも一定の相関関係が見られる。

今後も、「あいさつ手伝い運動」をさらに広げ、家庭・地域とともに、子どもたちがしっかりとあいさつをできるよう取り組んでいく。

② 学校であったことや友達のことを家の人に話しますか。

「している」「どちらかといえばしている」と答えた割合の変化

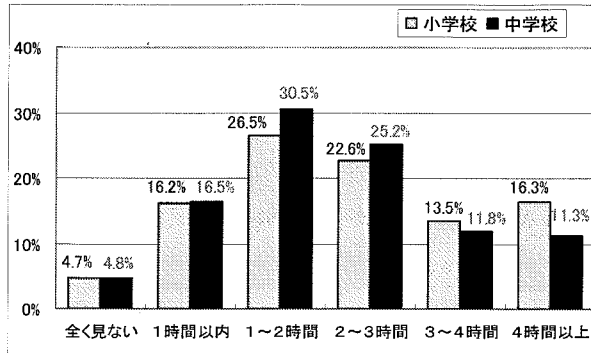


4段階の選択肢の中で、「している」と「どちらかといえばしている」と答えた割合は、23年度と比べて小学校が微増、中学校は約4ポイント上回った。

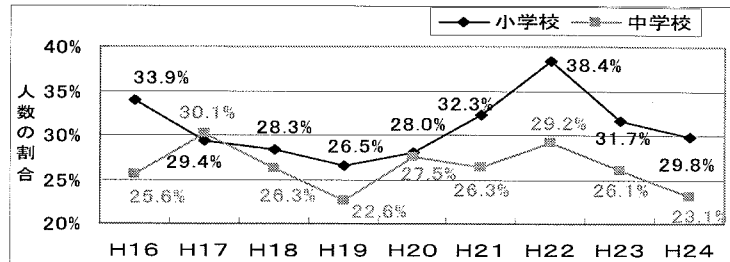
コミュニケーション能力を要する国語科等の正答率との相関関係も強く、家庭での会話の大切さをさらにアピールしていく。

(6) テレビ・ゲーム・インターネット

① 普段(月～金曜日)、1日にどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見ますか。

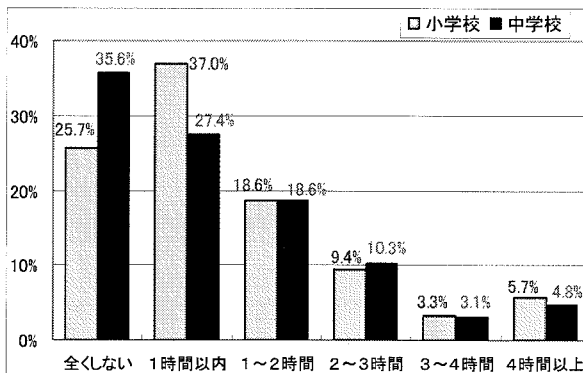


「3時間以上見ている」と答えた者の割合の変化

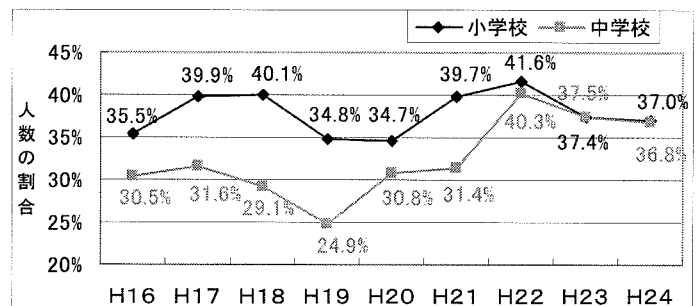


「1日に3時間以上見ている」と答えた児童生徒の割合は、23年度と比べて小・中学校とも減少した。ただ、「1日に4時間以上見ている」という割合は小学校が約16%、中学校が約11%に上っている。今後も、家庭とともに、けじめのある生活習慣の確立に取り組んでいく。

② 普段(月～金曜日)、1日にどのくらいの時間、TVゲーム(コンピュータゲーム、携帯式ゲームを含む)をしますか。

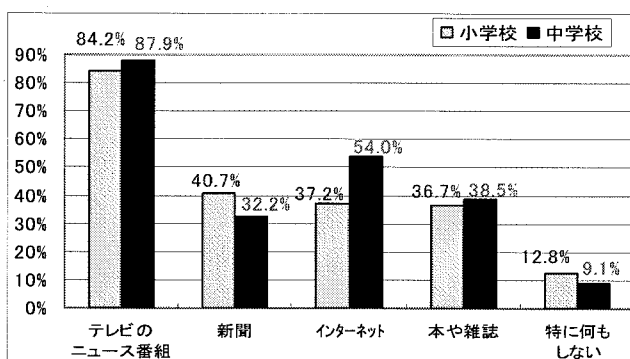


「1時間以上している」と答えた者の割合の変化



「1日に1時間以上している」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校とも平成22年度までの増加傾向に歯止めがかかり、減少傾向にある。ただ、「1日に2時間以上している」という割合は18%を超えている。今後も、家庭とともに、けじめのある生活習慣の確立に取り組んでいく。

③ あなたが世の中の出来事を知ったり、情報を得たりするために、行っていることは何ですか。(複数回答可)



小・中学校ともに、「テレビのニュース番組」という回答が8割を超えている。中学校では、「インターネット」という回答が「新聞」や「本や雑誌」よりも高く、半数を超えている。

また、「何らかのメディアを活用して情報を得ている」と答えた児童生徒の方が、「特に何もしていない」と答えた児童生徒より、全ての教科において正答率が高かった。

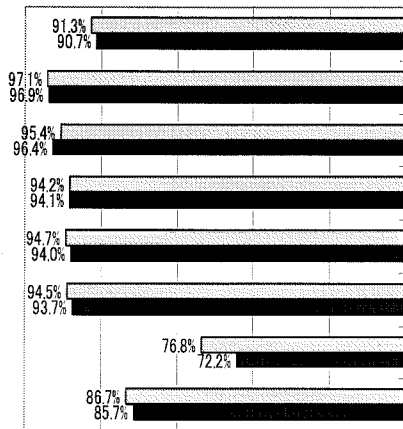
(7) 規範意識・自尊感情

平成24年度全国学力・学習状況調査との同一項目における「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合の比較

全国調査は小学6年生、中学3年生を対象に、24年度の4月に実施したもの。神戸市調査は、小学5年生、中学2年生を対象に実施している。

小学校

100% 90% 80% 70% 60% 50%



学校のきまりを守る

友だちとの約束を守る

いじめはいけない

人の気持ちが分かる

人の役に立つ

最後までやりとげてうれしかったことがある

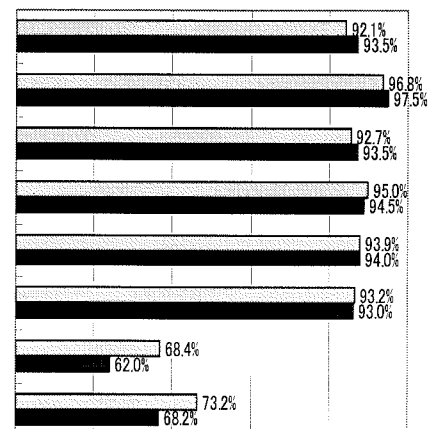
自分にはよいところがある

将来の夢や目標

中学校

□ H24全国 ■ H24神戸市

50% 60% 70% 80% 90% 100%



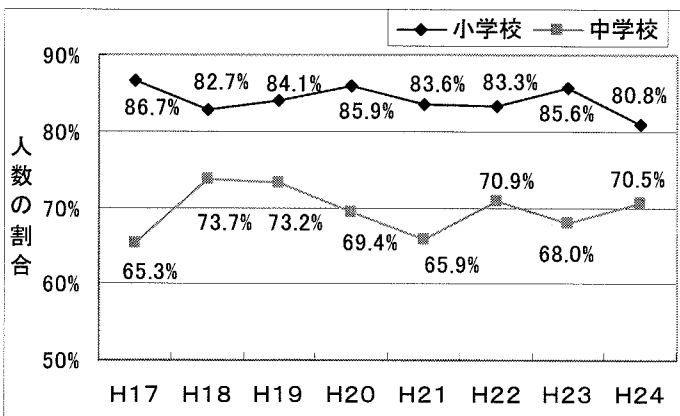
全体として、全国平均と大きな差は見られない。

その中で、小・中学校とも、「自分にはよいところがある」や「将来の夢や目標」という回答が、全国平均と比べてやや低くなっている。今後とも、児童生徒の自尊感情や自己有用感の醸成に取り組んでいく。

(8) 社会への関心・地域行事への参加

○ 最近1年間に、学校以外の地域行事に参加したことがありますか。

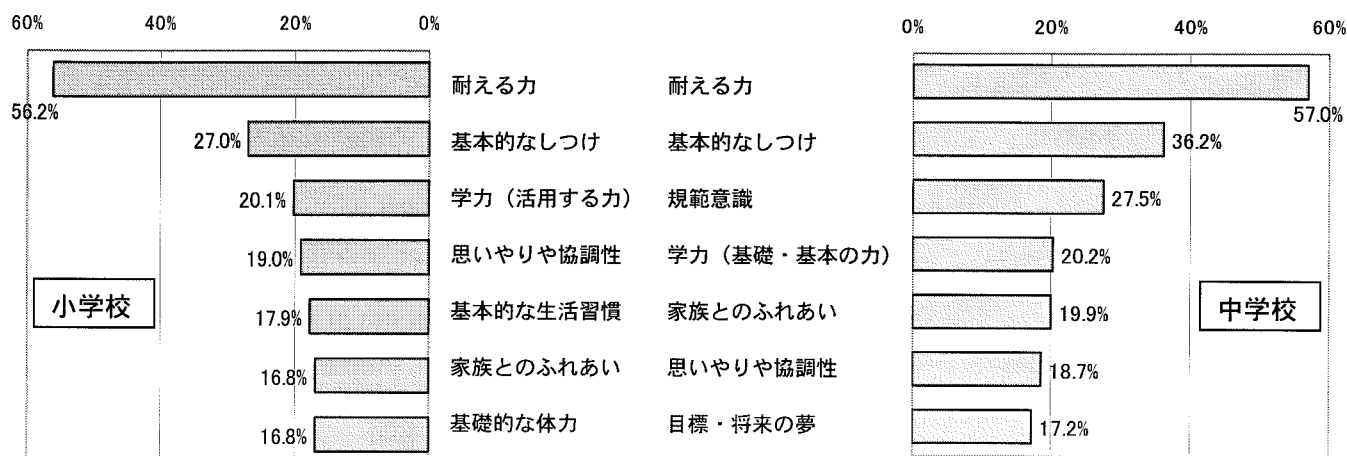
「何らかの行事や活動に参加したことがある」児童生徒の割合の変化



最も参加の多い地域行事は、小中学校とも、「地域の祭り」で、次いで多いのが、「子ども会・町内会の運動会・クリスマス会など」「地域での清掃活動・町内の避難訓練など」であった。

5. 学校教育活動等に関する教員調査（抜粋）

① 児童生徒に不足していると思うことを3つまで選んでください。



（以下）

規範意識	16.6%
学力（基礎・基本の力）	16.2%
外での遊び	16.1%
家事・家業の手伝い	12.2%
自然に親しむ活動	12.1%
読書の量	12.1%

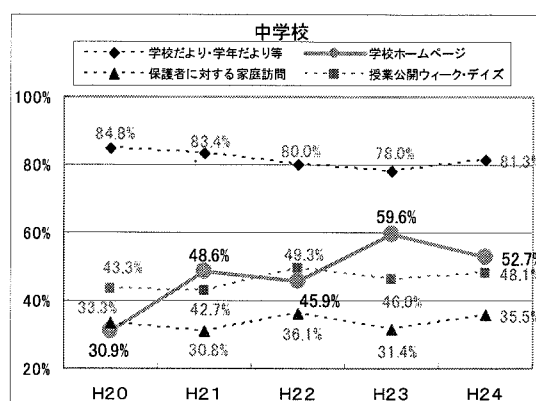
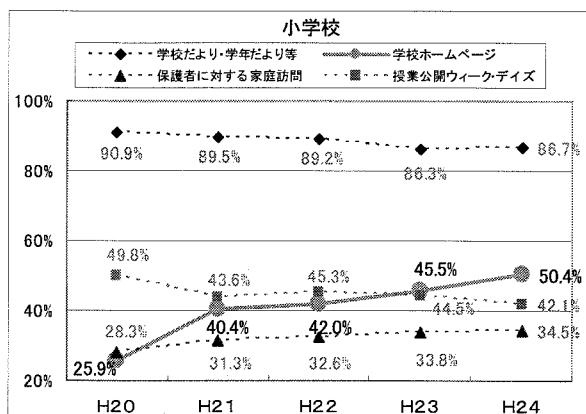
（以下）

基本的な生活習慣	15.6%
学力（活用する力）	13.9%
外での遊び	10.6%
家事・家業の手伝い	10.5%
学習意欲	10.3%
基礎的な体力	8.5%

小・中学校ともに「耐える力」が50%を超えて最も多く、次いで「基本的なしつけ」となっている。学力については、小学校で「学力（活用する力）」が3番目に、中学校で「学力（基礎・基本の力）」が4番目にあげられている。

② 保護者や地域による学校教育への理解を進め、連携協力を推進するために、教育活動の情報をどのような方法で保護者や地域に提供していくべきだと思いますか。次から3つまで選んでください。

選択肢9項目のうち 上位4項目の経年比較



教育活動に関する情報提供については、小・中学校ともに「学校だより、学年だより等」、「学校ホームページ」、「授業公開ウィーク・デイズ」、「保護者に対する家庭訪問」などに力を入れている。神戸市では、発進力に優れた学校ホームページの事例を全市に紹介するなどしており、今後も情報発信の強化に努めていく。

教科の正答率と

学習に対する意識・生活実態の関係

先に掲載した「教科に関する調査」と「学習に対する意識・生活実態調査」の結果との間に強い相関関係が見られる項目をまとめた。

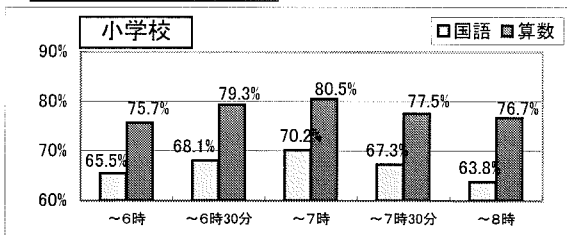
学校や家庭・地域で、児童生徒への指導に活用する。

各設問の選択肢ごとに、「国語」「算数・数学」等の正答率をグラフ化した。
(グラフの縦軸は正答率、横軸は選択肢)

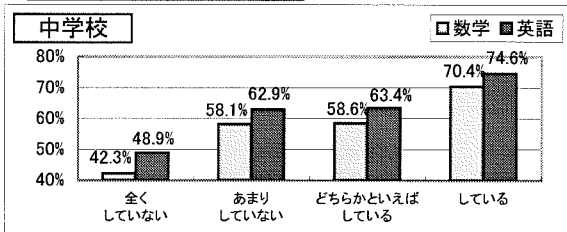
1. 規則正しい生活習慣

「早ね・早おき・朝ごはん
元気・笑顔のひみつだよ」

起床時刻×正答率



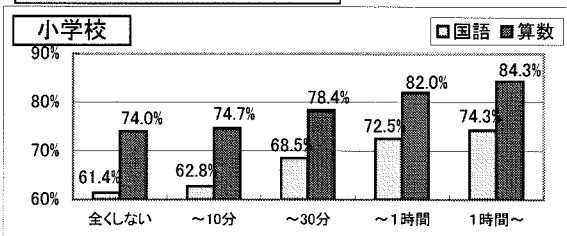
朝食の摂取×正答率



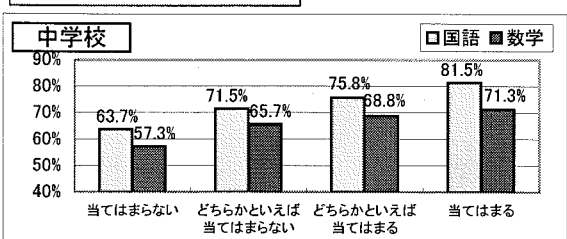
4. 読書習慣

「毎日の読書で夢を 広げます」

1日の読書時間×正答率



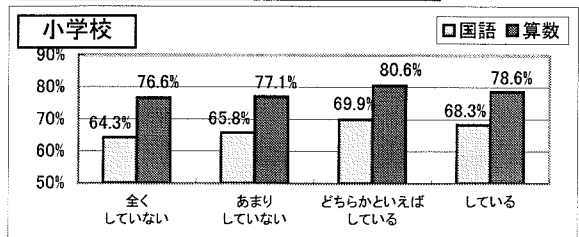
読書が好きだ×正答率



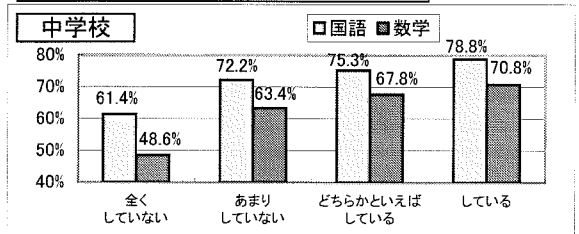
2. あいさつ・手伝い

「にっこりあいさつ うれしいな
進んでやるよ お手伝い」

近所の人へのあいさつ×正答率



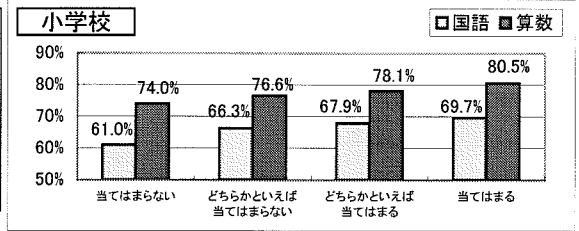
家族へのあいさつ×正答率



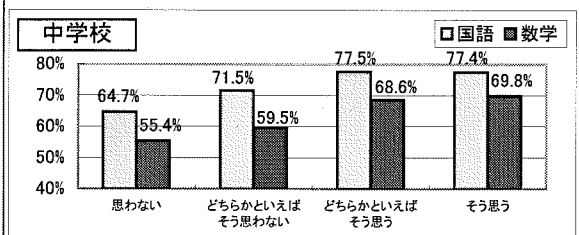
3. 学校生活

「友だちと しっかり勉強 学び合い」

学校が好きだ
×正答率



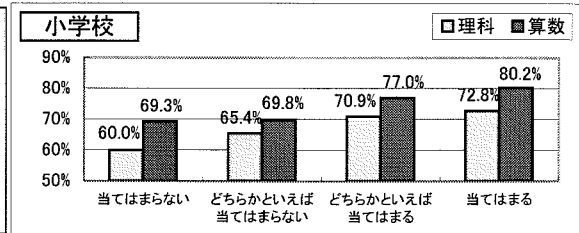
好きな授業がある
×正答率



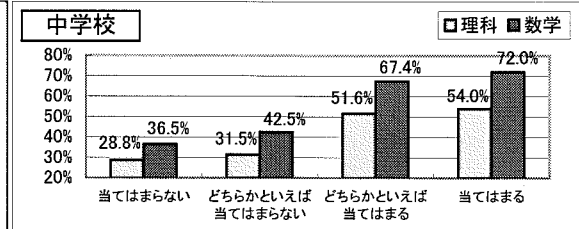
5. 規範意識

「ルールとは 楽しく生きる 道しるべ」

を友だちとの約束
を守る×正答率

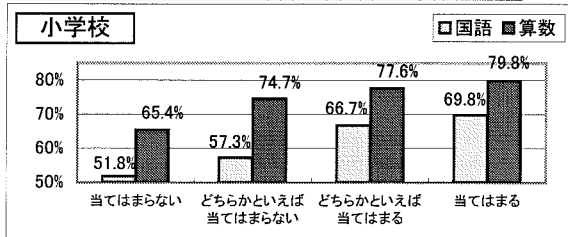


学校のきまりを守る×正答率

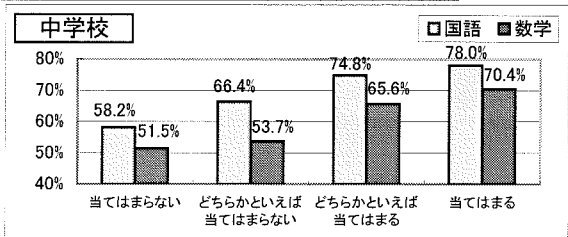


6. 思いやり・ねばり強さ 「助け合い 支え合い 力を合わせて 一つの輪」

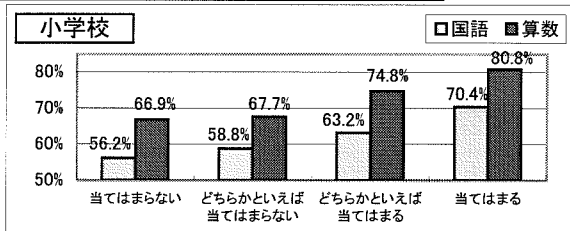
人の気持ちが分かる人間になりたい×正答率



人の役に立つ人間になりたい×正答率



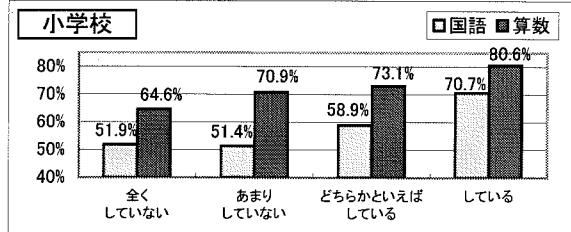
最後までやりとげて
うれしかったことがある×正答率



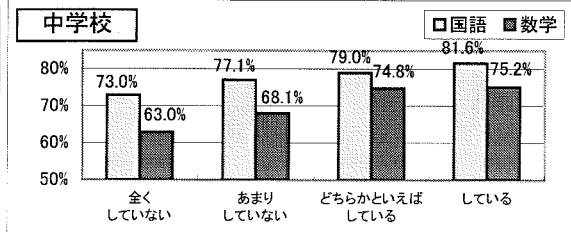
テスト
する
ところ
を
後
で
間
違
う
と
テ
ス
ト
す
る
こ
ろ
を
後
で
間
違
う
と
テ
ス
ト
す
る
こ
ろ
を
後
で
間
違
う
と

7. 家庭学習 「予習・復習・やり直し 努力と根気の 見せどころ」

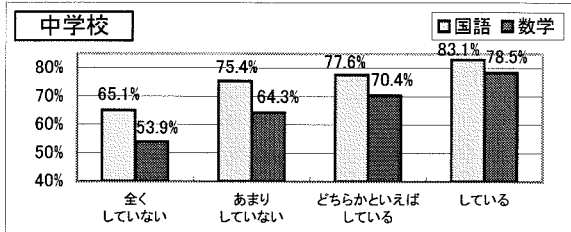
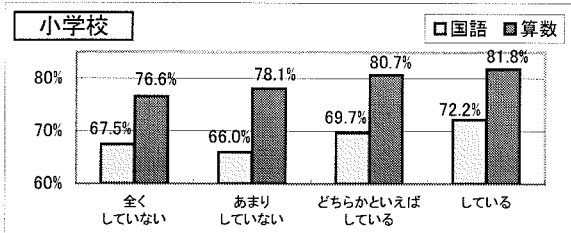
宿題×正答率



予習×正答率

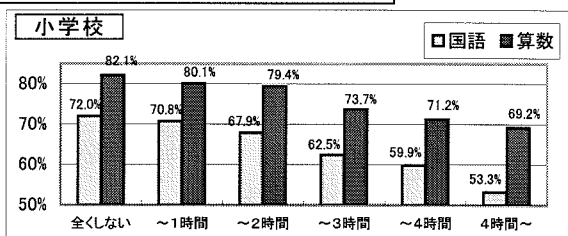


復習×正答率

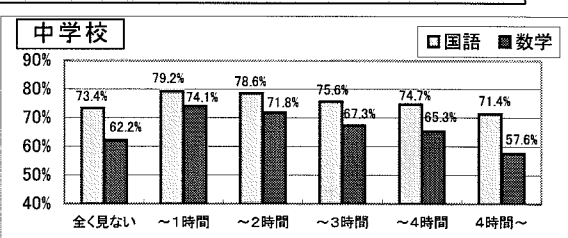


9. けじめある生活 「もったいない 大事な一日 ゲームだけ？」

テレビゲームをする時間×正答率

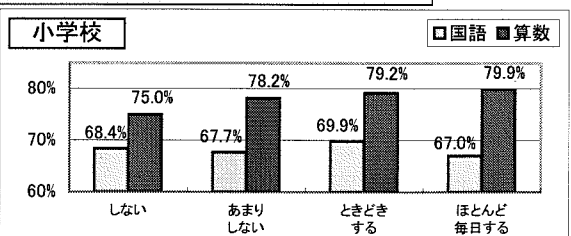


テレビやビデオ・DVDの視聴時間×正答率



8. やる気 「スポーツで 流した汗は 金メダル」

運動やスポーツの頻度×正答率



10. 家族との会話 「家じゅうに いっぱいびく 家族の声」

家族に学校や友だちのことを話す×正答率

